

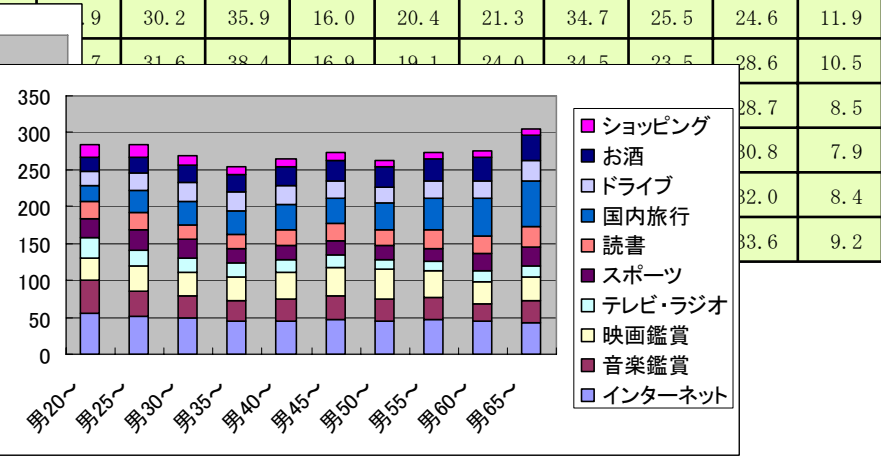
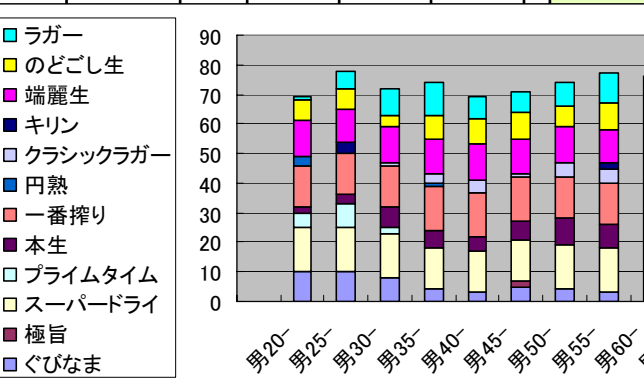
連環データ分析 スタンダード

DCB-AS2 水平配列複数クロス表の処理

Dual ComBine Analysis ○○ クロス表を可視化し、意味をもつ情報を得る

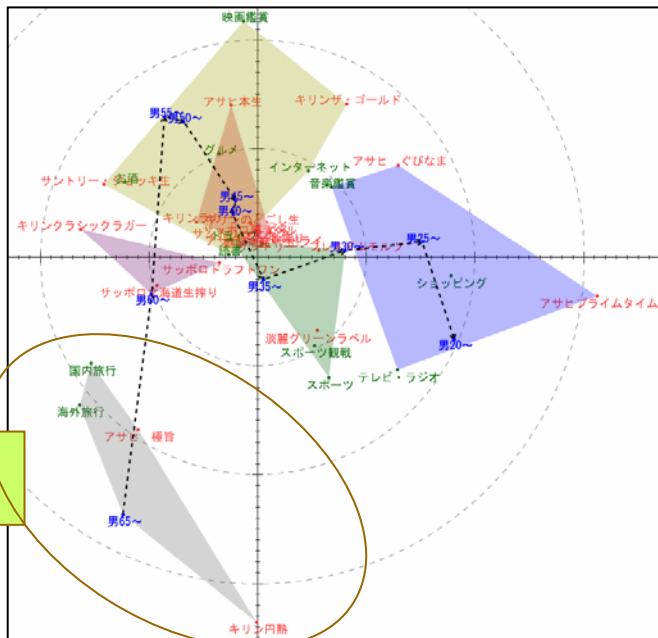
- ・複数のクロス表で、視点を選び、データが語る全体の構成や成り立ちを理解し、その意味を理解するのに役立ちます。
- ・別々に存在していたデータを、関心のある別のデータと連環させて、意味のある情報に変換できます。
- ・いろいろな角度からのデータを連環して可視化し、多面的に、一貫した仮説やメッセージを探索することができます。

Item	ぐびなま	極旨	スーパードライ	プライムタイム	Item	インターネット	音楽鑑賞	映画鑑賞	テレビ・ラジオ	スポーツ	読書	国内旅行	ドライブ	お酒	ショッピング
男20-	10	0	15	5	男20~	56.5	43.0	30.5	27.4	25.4	24.0	22.4	18.9	17.8	17.7
男25-	10	0	15	8	男25~	51.1	34.8	33.7	21.2	27.8	22.9	30.6	23.3	20.9	17.6
男30-	8	0	15	2	男30~	49.5	30.3	32.0	18.1	26.0	19.5	31.5	26.6	21.9	13.9
男35-	4	0	14	0	男35~	45.6	27.7	32.0	17.6	20.8	18.2	31.6	25.4	23.8	11.5



エクセルで処理

連環データ分析で可視化



- ・上の2枚のクロス表データから、何を読み取るかは、面倒で、ややこしい問題。
- ・上の2枚のクロス表を可視化したエクセルグラフから、何を読み取るかも、やはり難しい。
- ・しかし、何枚ものクロス表でも統合して全貌を見たい。
- ・連環データ分析マップでは、65歳以上の高齢者は、趣味は国内旅行、海外旅行だが、飲むのは第3のビールである。健康か、節約志向か、あるいは味覚劣化か等の仮説が議論を呼ぶ。
- ・サブジェクトが共通であれば、データを統合して、相互関係を同時布置し、同時クラスタリングが可能
- ・データの出典：(日経BP社発行ブランドデータバンク著「世代×性別×ブランドで切る! 調査3万人の消費」2008年版)

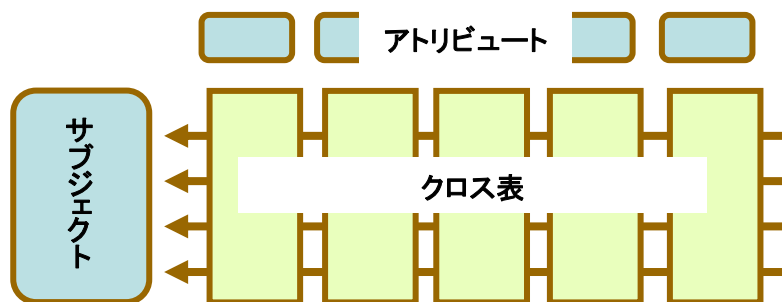
連環データ分析が求められている分野

- ・世代別のブランド嗜好データと別に世代別の価値観データがあるが、これらを統合して、ブランドイメージを再検討したい。
- ・日本の地域の多くの経済基礎統計に関し何年かの経時的なデータがあるが、その構造的変化の概略を検討し、整理したい。
- ・個々の顧客に関する属性や行動の記録があるが、これらの全ての属性の組合せの特徴から、顧客を層別したい。
- ・ある企業のビジネス領域のニーズに関する調査と、その企業シーズを発展させるビジネスを結んで、マッチングを図りたい。

アドバンテージ

- ・イメージを正確に伝えたい場合、それには言葉しかありません。それも飾る言葉と、喩える言葉しか有りません。連環性は、そうした双方向の相互類推性を明確にするためのツールです。
- ・相関性は2種類だけの定量的特性の大小の相互関係を明確にするもので、多種類の特性の定性的な相関性、例えば相互類推性を明確に説明する方法はありませんでした。しかし、サービスビジネスに関わるソリューションには欠かせません。
- ・あるサブジェクトの特徴は、対応するアトリビュートとの連環度をプロファイルとして説明することができ、逆に、アトリビュートの特徴は、対応するサブジェクトのアイテムとの連環度プロファイルで説明されます。これが相互類推性です。

従来扱えなかった問題



・キーとなる事象をサブジェクトとし、それに関係した多くのアトリビュートで、相互関係を説明します。

・連環性

日本の山で、“富士山”といえば、“高い”である。逆に、“高い”といえば、“富士山”である。連環性では、逆が成り立つとは限らない前提です。

・相関性との違い

相関性が、ペアーのアイテムの特性の大小関係を扱うのに対し、連環性は、多くのアイテムからなるサブジェクトとアトリビュートの双方向の関係性を扱う。

・回帰性との違い

社会現象では、クロスデータが正規分布から外れ、極値分布になるのが自然です。そのため、行と列の特性を活かした平準化のオプションが必要です。

主要機能: ・同時布置 ・同時クラスタ ・立体表示 ・多次元距離 ・結線 ・描画 ・標準距離 ・近さランクリスト

従来の方法との比較:フィーチャ

- ・最近マーケティング等で注目されている多重対応分析(Homogeneity Analysis)は、分析対象をサブジェクトとして表側にとり、複数のアトリビュート属性を表頭にとって、複数の対応関係をOn-Offの[1,0]で示すクロス表データとして扱う方法で、日本でも良く使われるようになってきました。しかし計量データ、順序データ、言葉などのデータは扱えませんでした。
- ・連環データ分析(Dual ComBine Analysis)は、これを拡張し、定量データや定性データを扱えるようにすると同時に、複数のクロス表データを次元圧縮し、サブジェクトとアトリビュートの同時布置し、同時クラスタリングし、MAP化し可視化を可能にしました。
- ・ある状況事象を多面的な視点から俯瞰し、また時系列な傾向を読み取るために、あるサブジェクトを共通アイテムとして連結クロス表とし、全体の視点から細部まで議論できる可視化MAPとして世界に先駆けてご提供することに成功しました。

ご利用法と推奨環境

- ・連環データ分析は、弊社が管理するサーバから、お客様がご使用になるPCに、最新版のソフトをダウンロードして、ご利用して頂く形となっております。ご利用法は、年間の期間レンタルとし、ソフトをご利用サービス提供の形態でお届けしております。
- ・お客様がお使い頂くとき、お届けいただきましたメールアドレスで確認をさせて頂いております。また最新版をお使いいただくため、最初のダウンロード時のみならず、できるだけインターネットに接続した形でのご利用をお願いしております。
- ・PCのシステムとして以下の環境を推奨しております。コンピュータ本体:PC/AT互換機 ・CPU :2.0 GHz以上 ・主記憶装置:2.0 GB以上 ・ハードデスク空き容量:2 GB以上 ・ビデオメモリ:128 MB以上 ・OS:Microsoft Windows Xp Home Edition以上 ・その他:Java Runtime Environment 6(JRE 6) 以上およびエクセルがインストール済みであること。

○ お申し込み・お問い合わせ

Data.CakeBaker

データ・ケーキベーカ株式会社

<http://www.dcb.co.jp>, <http://blog.co.jp>, Mail: dcb@dcb.co.jp FAX: 042-357-6871

〒206-0013 東京都多摩市桜ヶ丘1-53-46